校長室からこんにちは！

No.２５
１１月２２日
発行者　中田 禎二

耐えてこそ美しい

先月日本から大衆演劇「はる駒座」がやって来て観客を大いに沸かせました。大衆演劇というと，かつてはどの町にもやって来て娯楽の少ない人々を楽しませたものです。その後は梅沢劇団の大ブレークを待つことになる長いトンネルの時期を各劇団が耐え忍んできたわけですが，子どもの頃チャンバラ遊びに興じた私はあの節回しや舞踊，そして何より雰囲気が好きでした。

ところで，次の文は卒業文集に寄せた私のメッセージです。６年生の子どもたちに，一緒にテレビで見た大衆演劇の舞台裏から感じてほしかったことを述べています。

『とにかく厳しい…。おこられるのもぶたれるのも当たり前。子どもも大人も関係なし。理屈の通用しない世界。一切の言い訳が許されない世界。全てに芸が優先する世界。何を感じましたか。冷たいですか。ひど過ぎますか。でも，一流とかプロと言われている人はみんなこのような厳しさを体験しています。最後のシーンで，３９度の高熱でも襲名披露の舞台に立ち，芝居をやり通し拍手喝采を受けた４歳の男の子を忘れないでください。』

また，有名なシンガーソングライターがその能力を賞賛された時，「私にはそんな才能はありません。あるとしたら努力を続けることくらいです。」と言った言葉も忘れられません。

もちろん，努力したらみんなが成功するなどという無責任なことは言いません。しかしその在り方生き方こそが大切だと思うのです。それが，どれだけその人の人間性を豊かにするでしょうか。

実は学校はその努力を地道に続ける体験をさせる場でもあるのです。そして，子どもなりにその本質に触れさせようとしているのです。これは教育基本法１条「教育の目的」で示されている「人格の形成」に迫る大きな教育活動でもあります。

本校の子どもたちも日々教師の指導に素直に耳を傾けコツコツと学んでいまが，保護者の皆さんも自分の経験や長い間苦労して夢を実現した人々の生き方などを折に触れて話してください。そして，人生の目標は汗を流し，失敗を重ねながら達成していくものだと，励まし，温かく見守ってください。

ノーベル賞を受賞した山中教授が米国留学で習った一番大切なことは，「目標を持ち一生懸命やる」という誰でも知っている平易なことだそうです。ですが，「言うは易し，されど行うは難し」ですね。

明日の学習発表会ではドーハっ子の努力の一端に触れて下さい。

校長写真館

♪秋の夕日に　照る山もみじ　こいもうすいも　数ある中に…♪

本校の児童玄関には，日本の四季があります。そこに立つ度に，故郷が思い起こされます。今月は紅葉も美しい秋の景色。明日の学習発表会では，昼食美化委員会の児童・生徒による心のあたたまる手作り作品もご覧下さい。

ちょっとお耳を…

「なぜうちの子が主役じゃないんですか！」
「先生はどうやって役を決めたのですか！」

学校に対する有名なクレームのパターン。

学校の主役は誰？それは，子ども一人一人。主役が演じる劇に主役も脇役もない。主役か演じるんだから，台詞がなくてもそれは主役に決まっている。

「世界に一つの花」を聴けばそうだと頷く。でも曲が終わると，我が子への欲が頭をもたげる。他人の子との比較が始まる。生まれた時にはただそれだけで涙が溢れたのに…。